

日本在住の外国人親子関係の変容から見た福祉政策的課題に関する研究：親と子のライフコースから

異分野研究交流会

1. 研究の背景

I 在日中国人人口の増加と定住化の進展

II 家族構成の特徴と子育ての現状

III 定住化に伴う政策的課題

目的：日本在住の外国人親子関係は、ライフコースのどの段階で、どのように変容するのかについて、具体的な変容の要因を明らかにしていくことにしたい。その上で、異なるライフステージにおける親子関係の変容における、日本の福祉政策との関連性を捉えていくことも大きな課題の一つである。これによって、多文化共生社会に向けた、外国にルーツのある移民家庭に対する包括的な支援政策の課題を提供することが期待できる

2. 先行研究

①定義について

- ・移民について：移民とは：国連の定義によれば、移民とは居住地の移転を伴う国際移動をすることであり、その中でも1年以上の期間、外国に住む人を長期移民と定義している（UN DESA 1998）。
- ・親子関係について：日々の具体的なやりとりを超えた、親と子の間で築かれる全体的な関係性のパターンを指す（岡本・清水・村井、1995）。この関係は、子供が生まれ育つ過程で、その社会性や性格、他人との関わり方など、人間形成の多くの面に大きな影響を与えるため、重要な研究テーマとなってきた（戸田、2009）。

②先行文献について

日本に定住する外国ルーツ家庭における家族支援の現状から福祉政策の評価に関する研究：支援のアウトプットから見る（図1）

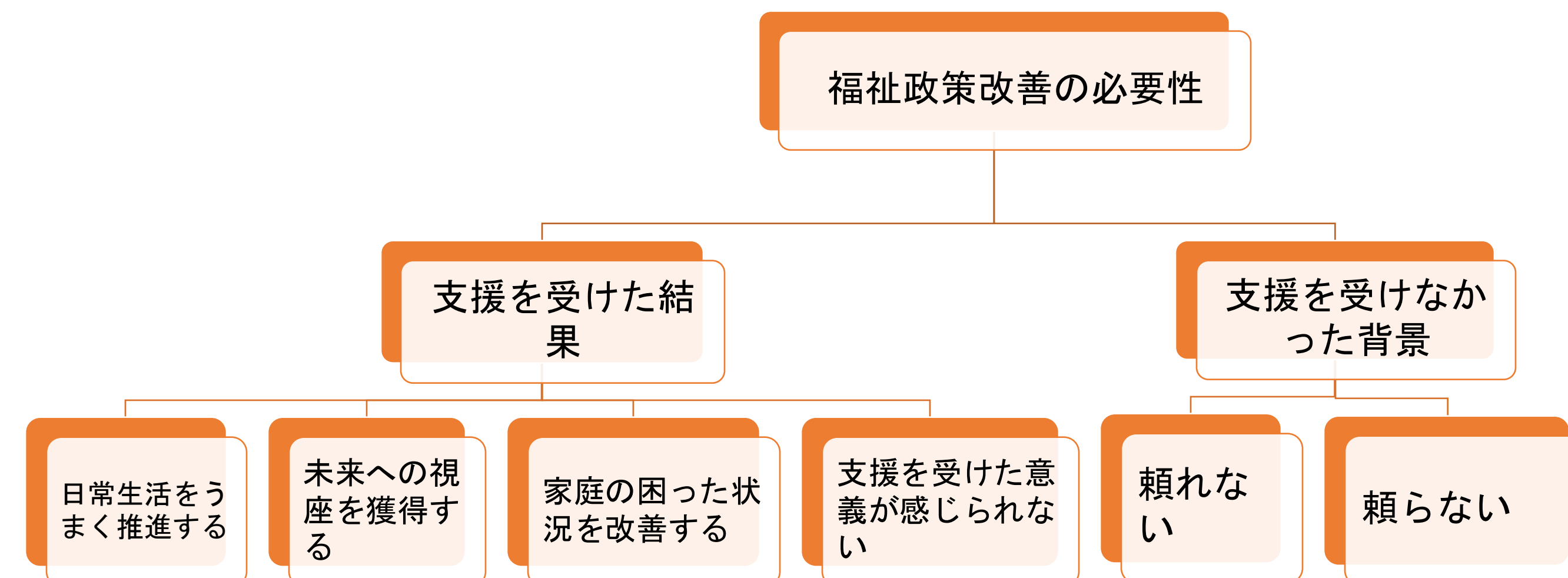


図1 支援のアウトプットに関する先行研究に基づき筆者が作成

3. 日本に定住する外国人家庭の親子関係に関する調査(研究中)

①目的：日本在住の中国人親子関係は、ライフコースのどの段階で、どのように変容するのかについて、具体的な変容の要因を明らかにしていくことにしたい

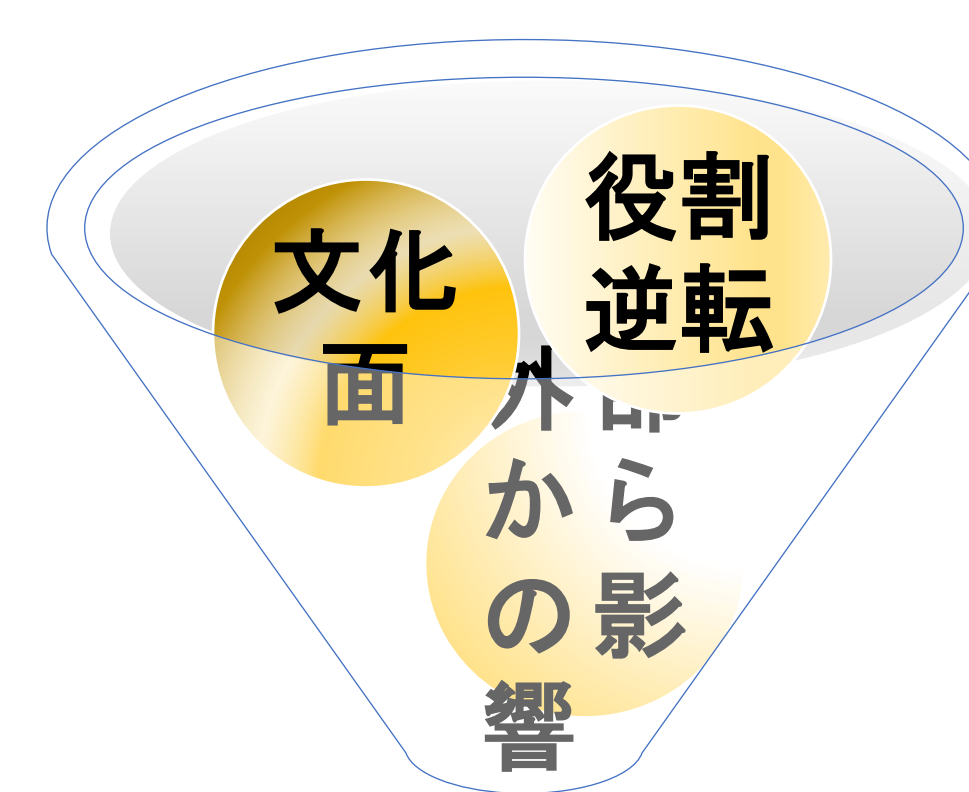
②先行研究

- i. 日本に定住する中国人の研究現状
- ii. 日本に定住する中国人の家庭構造
- iii. 日本の移民家庭に向けた政策現状

③研究方法：日本に在住の中国人家庭を対象にした半構造化インタビュー調査：世代（親世代・子ども世代）それぞれからデータを収集し、比較分析を行う。ライフコース上の転機に焦点を当てライフストーリー調査を行う。

④分析に関するカテゴリー(図2・図3)

- ・家族単位では解決できない構造的問題の可視化
- ・地方自治体や学校、福祉機関での取り組みの評価
- ・外国籍家庭への包括的支援策や情報提供の強化の必要性



親子関係の変容が形成する(予想図2)

図2 インタビュー調査に基づき筆者が作成

問題の可視化によると

多文化共生の再編成(予想)

支援策の強化による

取り組みの再評価による

図3 考察に基づき筆者が作成

4. 外国人家庭に向ける福祉政策の国際比較(予想)

目的：外国人家庭における福祉政策の国際比較を通して、日本の福祉政策の発展を示すことが期待される。

研究内容：外国人向けの福祉政策の文献を検討する→文献研究